

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ



ふじみの国際交流センター
Fujimino International Cultural Exchange Center

2020年9月号(年3回発行) 第154号

こんな時だからこそ! 「笑顔で」

FICECには早くから、器用なスタッフによる手作りの飛沫防止パネルが所狭しと設置された。6月からは人数制限はあるものの日本語教室や国際こどもクラブが再開し、日本語指導の助成事業やインターンシップの研修も加わって事務所に活気が戻ってきた。朝の念入りな掃除、来訪者への手の消毒と検温、換気とソーシャルディスタンスは当たり前のように身についた。こんな時でも事務所に行けば気兼ねないスタッフとこの不自由さをも笑い合い、活動できることがうれしい。



手作りの飛沫防止パネルをはさんでの日本語学習

異国に暮らすと決断し、だれもが一つずつ困難を解決してきただろう外国人はたくましい。でも、正確な情報提供と必要なサポートは地域社会の責任だと思う。ただでさえ不安なこの状況に在留資格や仕事の制限など、外国人ならではの様々な障害に留意して、行政は外国人へのサポートにも力を入れている。行政から送られてきた新型コロナに関する多言語情報はテーブルいっばいに並んだ。また、受益者負担が難しい「同行通訳」について、関心とともに必要性や対策が検討されている。生活や防災に関する多言語翻訳の依頼も増えている。FICECが地道に継続してきた活動が少しずつ社会の動向と重なっていく。FICECの役割を改めて認識したコロナ禍の半年であった。

さて、FICECは9月で今年度の事業が終了し、11月には総会を予定しています。

会員の皆さんに直接顔を合わせて1年の事業報告をしたいと願っています。

2019年度総会 11月8日(日) 場所/上福岡西公民館 地下ホール

詳細は後日、ホームページ等でお知らせします。

会員のみなさまには改めて郵送にてご案内いたします。



ベネッセこども基金による日本語学習支援事業がはじまりました。

公益財団法人ベネッセこども基金の助成金を受けて、今年7月から来日直後の子ども及びその親を対象とした教育事業を始めました。FICECの近隣には仕事の関係からフィリピン、中国、ネパール人の転入が多く、少し生活が安定すると母国から子どもを呼び寄せる親がたくさんいます。日本語がゼロの子どもが学校に適應するのは難しく、また就学の義務もないために社会から落ちこぼれていく子どもも少なくありません。FICECでは来年の3月まで入学前の子どもにひらがなカタカナを始めとする、最低限度の意思疎通ができる日本語の勉強と、日本の学校について学ぶ

機会を提供します。親には子どもの学校に必要な準備や日本語を教えます。また親子だけではなく、日本語を学んで働きたい学習者等も受け入れています。

まず3つのチームで教材を手作りし、留学生と学習者を募集し、教え方についてスタッフも留学生も研修を受けて準備を重ねました。

母語で日本語を教えたり、悩みを聞いたりする外国人スタッフと留学生、日本人スタッフが毎週祝日を除く月曜から金曜の午前中に入れ替わりで学習者を迎えています。

work 01 PR渉外担当から

安 銀柱

今回の「経済的困難を抱えている子どもの学びと支援活動」のことを必要としている人と、支援したいと思っている人に、どうすれば直接情報を届けられるかが、PRと渉外の大きな課題です。

そのために、チラシや事業案内文を作成し、必要に

応じてそれらを9か国語に翻訳しました。そして東武東上線沿線の大学、2市1町の小・中学校及び市役所、教育委員会、さらには外国人を多数雇用している企業や工場、飲食店などに、チラシや事業案内文を郵送し、また直接に訪問しPRしています。

勉強する親子を募集するチラシを9か国語+やさしいにほんごで作成しました



教材を使って日本語を勉強中です

現在多くの留学生が毎日教えにきてくれています

work 02 教材作成担当から

小林 暁美

日本語のできない成人のための教材「にほんごでくらそう」と、子どものための教材「はじめのいっぽ」、勉強の合間に行う頭の体操「いっしょにあそぼう」の3つの冊子を3チームに分かれて作成しました。

「にほんごでくらそう」では、あいさつの言葉から始まり、時間やお金の数え方、簡単な動詞の使い方、職場での危険を避けるための叱咤の一言や、ひらがなを勉強します。

「はじめのいっぽ」は、日本語が全くできない子ども

もが学校生活を送るための最低限の言葉（「まって」「とまれ」「トイレにいきたい」など）を覚えます。

「いっしょにあそぼう」は勉強の合間に、塗り絵・間違いさがし・迷路などで楽しく遊びながら頭の体操ができるように工夫しました。ひらがなカードも用意しました。

これらの本は学習者に手渡し、家でも継続的に勉強したり参考にしたりとできるようにと考えて沢山作りしました。



大人のための教材「にほんごでくらそう」



子どものための教材「はじめのいっぽ」



頭の体操のための教材「いっしょにあそぼう」

work 03 担い手の育成担当から

矢澤 美紀

担い手の育成のために「留学生」「母語話者」「日本人スタッフ」を対象とした講座を行いました。

講座では、まず今回の事業の目的である【来日直後の親子の日本語支援と相談】について話し、全員が共通認識を持てるようにしました。

その後、①保護者への支援と日本語指導、②子どもへの支援と日本語指導、③教材の使い方の講座を行いました。

①保護者への支援では、来日直後の保護者に対して不安や悩みを十分に聞くこと、それから日本の学校について説明をします。日本語指導では、日本語が全く話せない人に対する指導方法を伝えました。

②子どもへの支援では、まずは優しく笑顔で接してほしいこと、それから学校ですぐに使う言葉（教科

書、給食、友だち等）やサバイバルの言葉（わからない、まって、あぶない等）を教えます。また子どもが疲れた様子ときは、教材（いっしょにあそぼう）も利用するよう話しました。

③教材の使い方の講座では、担当者に教材の内容と使い方を説明してもらいました。



子どもの教え方について研修を受けている留学生



2018年に仲間入りして早いもので3年が過ぎました。最初は近隣企業の労働組合役員としてフードバンク事業のつながりでFICECを訪れたのが始まりでした。「海外の方々の言語や生活支援をやっている団体が会社の近くにあるんだなぁ」位で寄らせて頂いたのですが、その内に理事のお話を頂き、ボランティア活動、組織の運営に興味があったので何か力になれば・・・ということで仲間入りさせて頂きました。仕事との両立はなかなか難しく、海外の方々と交流の場があるので外国語を学ぶ機会になればいいなと思っていたのですが、なかなか実行出来ずにいます(反省)。

とは言え、得意なところで少しでも協力出来ればと思い、昨年の上福岡七夕祭りで借用したピンボー

ル台が欲しいなと聞き、他団体の台を参考にして、FICEC独自の台を製作しました。途中、広い盤面に「絵を書いたらいいなぁ」と思い、STAFFのみなさんに書いて頂きました(これはGood Ideaでした)。七夕祭りにデビュー予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大でその機会を逃してしまいました。コロナ禍でも、活動継続できるように飛沫防止の工夫が必要になり、これもいろいろなものをみて製作してみました。今はビニールシート越しのコミュニケーションですが、一日もはやく、取り払った環境になって欲しいと思います。

男性STAFFでは若者の部類?になりますが、行動力を活かしてFICECの活動に関わっていきたいと思います。(50過ぎのオヤジですが(笑))



第1回

台湾の手作りおやつ

寺村 璧如さんの 緑豆湯 (リュートータン)

○材料:

緑豆 …………… 120g
さつまいも …… 小1個
水 …………… 約1000cc(最初に)、約800cc(後で)

○作り方:

- ①さつまいもを食べやすい大きさに切る。
- ②緑豆と水と一緒に煮る。最初は強火で、沸騰したら中火にする。
- ③10分位後で切ったさつまいもを加える
- ④さらに25分ほど煮る。
- ⑤水800ccを加えて、沸騰させる。沸騰したら火を止め、砂糖を入れてかき混ぜ砂糖が完全に溶けたらできがり。

緑豆はもやしの豆です。日本では輸入食料品を扱っている店で買えます。私は台湾に帰ったときにまとめ



買いします。緑豆湯は冬は暖かいのを、夏は冷たいのを食べます。

昔は家でも作ったものですが、最近の人は外で食べますね。かき氷の店に行くと、トッピングとして並んでいます。今回はさつまいもを使いましたが、かぼちゃでもあいます。

「外国人生活相談入門書サイドブック」を作成しました

FICECが生活相談を始めて25年。「コープみらい暮らしと地域づくり助成金」をいただいて念願の生活相談入門書サイドブックを1000冊作成し、埼玉県内全ての市町の外国人関係課に送付しました。

外国人労働者受け入れ拡大を目指して「特定技能」という新在留資格ができ、昨年4月には出入国管理局を庁に拡充するなど、政府の認識も大きく変わってきています。

県内の在留外国人も189,043人に増え県人口の2.6%を占めるほどになりました。

外国人に関する法律や条例を解りやすくしたこの入門書を活用していただいて、県内処々方々に外国人相談窓口が設けられ、共生しながら、日本人と外国人が生き生きと生活できる社会になると良いと希望しています。

外国人生活相談は、永住・定住化しつつある彼らに、家族ではないけれど本気で関わっていきこうという気持ちさえあればそんなに難しいものではありません。

コロナの影響で、保証されていた在留期間が過ぎても帰国出来ない人の延長を認めたり、入管局の3密を防ぐための営業時間の関係でビザの更新の遅延を認めたり、休業や失業の為に在留資格以外の仕事を認める等、入管法が大きく揺らいでいるのが今の状況です。

残念ながら、コロナによる急で一時的な入管法の変更はこの入門書には載っていません。元の正常な状態に戻り、十分活用して貰えるように、コロナの終焉を待つばかりです。

(石井ナナエ)



見送りの3振より空振りの3振 パートⅡ

石井ナナエ

○月○日

ぐったりと体を休める土曜必見のテレビは「徹子の部屋」。今日のゲストは86歳になられた評論家の樋口恵子さん。ぽんぽん飛び出すユーモアたっぷりの名言は昔とちっとも変わっていない。

「ピンピン・コロリは夢の話。誰もがモタモタ・ヨレヨレ・グズグズになるの」と笑い、「80歳を過ぎて必要なことは食・触・職」「困ったときはHELP ME！人に頼ることも大切」と話す。

徹子さんを「人生100年時代のリーダー」とおだてる事も忘れない。見習いたいものだ。

○月○日

コロナの影響は在留外国人も同じで、ロックダウンで帰国できなくなった人、仕事が減った人、アルバイトを断られた留学生、ビザが切れてしまった人など相談が後を絶たない。入管法も大きく変更された。

外出自粛や休業要請で10万円の特別低額給付金・

最長9ヶ月の住宅確保・休業支援等の給付金等の設置に加え、社会福祉協議会からは緊急小口資金・生活福祉資金の特別貸付もある。申請の仕方がわからないと100件以上の問い合わせがあった。この赤字穴埋めは一体誰がするのだろう。子どもや孫世代の負担の重さが目に見える。

「給付金はもらえるけど、貸付金は必ず返すのよ」とお説教をしながら記入方法を教えた。

今後しばらくはコロナ禍の生活が続くと思われる。第2波、3波の時に同じような支援があるかは定かでない。

尊敬し信頼しているFICECの監事さんからは、「2年間、何の収入がなくても活動が継続できるように、資金を準備しておくように」と常日頃から指導されている。

「新しい生活様式」にせめて半年はなんとか生活できるように、創意・工夫・儉約・貯蓄を、住民一人ひとりが心がけるべきだと思った。

B-Project代表取締役

中村ブレースさん

1995年15才の夏休みに母親に東京ディズニーランドに連れて行ってあげると言われて日本に来てそれからずっと日本にいます。フィリピンではブレイクダンスが得意で学校の人気者でした。彼女ができたばかりで、学校が楽しくてしかたなかったのに、母親にうまくだまされて日本に呼び寄せられた。友だちにも彼女にもさよならも言えませんでした。

日本に来て中1に編入した時の校長先生が入管に手紙を書いてくれて、幸運なことに永住権が取れました。FICECはその頃母親といっしょに通って勉強しました。学校で外国人は自分しかいなくていじめられることもあったが、そのうちだんだん友達もできて日本の生活にも慣れて、楽しくなってきました。

その頃コンビニで「エブリバーガー」というハンバーガーそっくりのお菓子を見つけ、あまりのこだわった作りに感動して、もうずっと日本に住んでもいいと思ったのがターニングポイントでした。

20歳で高校を卒業、早く仕事を身につけたかったのでクロス職人になりました。23才で結婚、24才で子どもが生まれ、独立しました。理由は義理の父である親方と喧嘩したから。ふじみ野市周辺は全て義父のお客なので、自分は東京に行き飛び込みで営業しました。会社の建物の前で電話しては訪問し、断られても負けずに頑張って実績を作りました。ダンスが大好きだったけど、仕事にしたら嫌いになってしまうので好きなうちにやめ、仕事は嫌いだったけど、好きになろうと努力しました。家の内装を手がけていましたが、店舗もやりたくなったので27才で株式会社になりました。きちんとした営業が出来るようになるまでも大変でした。最初は下請けから始めて、その後内装のデザインもやりたくなり、図面をかける人を雇って今の形になりました。



現在従業員は全部で12人。人を選ぶポイントは受け答えが早い人。頭の回転が速い人がいい。人柄をみます。仕事は人のためにするものと考えないと日本では無理です。儲けるためにやっていたら僕のような人間は認められない、日本では成果に対して報酬はもらえるのでそれをいかに引き出すかが大事です。

フィリピンの子は愛国心がとても強くて母国に向きがちだけど、日本の文化を受入れてほしい。まず自分が受け入れないと、日本にも受け入れてもらえない。受け入れて、次に自分が何をしたいかです。

今でも外国人という目で見られるし、ハードルも色々あります。昔も今もナンバーワンになりたいんです。だから何がかっこいいのか、何が認められるのかを考える。目立ちたいんです。でも少なくとも自分の周りの人は幸せにしたい。

店舗内装工事
株式会社B-PROJECT tel 049-293-4738



外観。



信頼の証。



社員作の季節毎に変わるイラスト。



とてもオシャレなワークスペースです。

募集中

FICECでは、翻訳・通訳・生活相談に関わってくださるボランティアを募集しています。対象言語は英語・中国語・タガログ語・フランス語などです。お問い合わせ、お申し込みは電話かメールのフォームから連絡してください。よろしくお願ひします。



FICEC HPのメールフォーム



ふじみの国際交流センターのサポーターになってください

マンスリーサポーター募集中!!

在住外国人に多言語での情報提供や、生活相談、日本語学習の場が必要と思う方、在留外国人の孤立を防ぐための活動が必要と考えている方や企業のみなさま、またボランティアをしたいけれど時間のない方はマンスリーサポーターとなってください。

一人でも多くの方々の支援をいただき、わたしたちの活動が今後も継続して行けるようになればと、切に願っております。ご理解ご支援をお待ちしています。

マンスリーサポートの流れ

①HPの申込フォーム、電話、FAX、ハガキ等でご連絡ください。

住所 〒356-0004

埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25

電話 049-256-4290
または 049-269-6450
FAX 049-256-4291

認定NPO法人 ふじみの国際交流センター
マンスリーサポート係

- ②ご連絡いただいた方に、ゆうちょ銀行指定の自動払込申込書(3枚綴り)を送付します。
- ③ゆうちょ番号・寄付金額をご記入の上、押印して、返信用封筒にてご返信ください。
- ④毎月25日にゆうちょ銀行口座から自動引き落としで対応させていただきます。

○スポットサポーター募集

郵便振替口座(口座番号:00110-0-369511、口座名:[特活]ふじみの国際交流センター)または、現金書留でお願いいたします。



広告

立麻小児科・内科

担当医:立麻典子

- 予防接種:月、火、木 PM 2:30~3:00 要予約
- 乳児健診:金 PM 2:30~3:00 要予約

※お母様のお仕事の都合などで上記の時間帯にいらっしゃれない場合には、ご相談ください。

電話 **049-261-1182**

住所 〒356-0058 ふじみ野市大井中央4-11-14

	月	火	水	木	金	土
午前 9~12時			休診			
午後 3~7時			休診			休診

水曜日、土曜午後、日曜日、祝日は休診です。

○お店の広告を出しませんか?詳しくはFICECまでお問い合わせください。

FICECの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員…正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

●FICECを財政的に支える会員…賛助会員

賛助会員は、FICECを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、FICECのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費: 個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関誌をお送りします

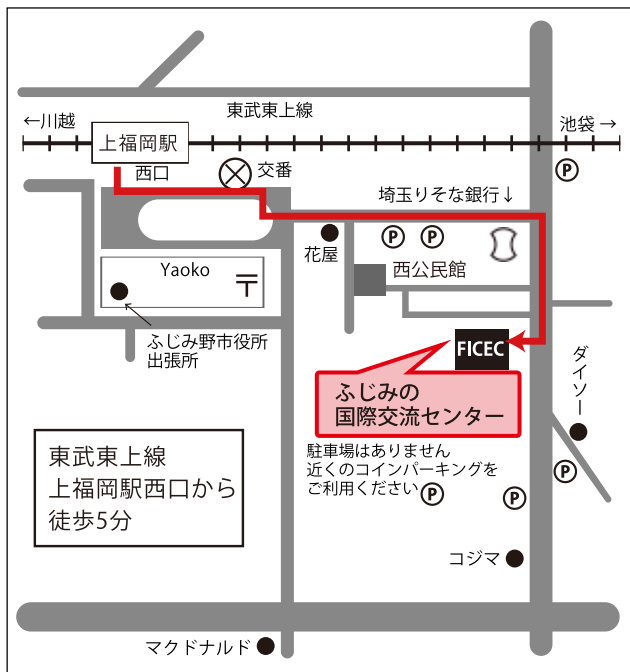
郵便振替口座: 00110-0-369511
 口座名: [特活] ふじみの国際交流センター

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00
 電話: 049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
 FICECをご紹介ください。

※コピー代など料金がかかる場合があります



埼玉県指定・認定特定非営利活動法人
ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 TEL: 049-256-4290 FAX: 049-256-4291
 生活相談専用電話 049-269-6450

**ご寄付をいただいた方々
 ご支援ありがとうございます**

●2019年8月1日～2020年8月20日(敬称略)

〈団体〉丘亜蘭、キハク堂、国際ソロプチミスト埼玉、立麻医院 立麻典子、田村工務店、高齢者総合ケアセンターマザーアース、立正佼成会一食運動、話書きサークル「集」

〈個人〉秋池敏子、秋本ノエミ、阿久津俊昭、穴沢エミリン、阿部幸枝、新井順子、新井節、新井良司、荒田光男、安銀柱、安亭亭、生村康之典、石山達也、伊藤愛、伊藤真弓、岩田愛子、岩田仁、上島直美、牛込亜紀子、内部分利明、王、尾浦邦彦、大沢エミリー、大澤さよ、大場弥太郎、小川愛子、小川仁也、尾崎功、大室昭浩、小田良子、小原知子、片倉ミン、加藤久美子、加藤陽一、金子左記子、金子廣志、狩野照乃、川井敏生、神田歩、神田順子、岸上友香、木村不二雄、ギャレット三宅万里子、樟山直美、久野弓枝、熊谷洋興、栗島美千代、木場ひろみ、小林暁美、小林和恵、駒形一夫、近藤知代、蔡紹東、坂入智子、佐藤茂、佐藤義治、サプコタ、ジェット、芝山喜巳子、島田敏郎、邵玲揚、江科、杉本佳久、高橋圭子、高橋真梨子、武田和子、橋賢、立麻肇子、田中功、近沢エルザ、チンテイバン、塚本秀樹、坪田幹男、寺村壁如、戸塚成子、富田恵子、豊枝洋子、中川令子、仲野谷美恵、中村禎作、榎府憲太、南部英司、野沢弘子、萩原教生、長谷川雅恵、長谷川正江、林田信幸、半田栄子、深沼マリ、藤巻則幸、保坂佐紀恵、松尾和子、松尾恭子、松本かよ、三浦清子、三橋博之、ミン、村井美穂、村山光代、茂木久美子、森下理恵子、森田有美子、矢澤美紀、山口満江、山畑博子、吉井ジュリエッタ、吉沢悦子、劉海燕

〈マンスリーサポーター〉石井幸夫、石井ナナエ、遠藤慧子、太田政男、小林久美、権田貴久子、末吉智子、中島恵津子、中田好江、中山浩子、野田恭三、野辺頼之、藤井みどり、八重樫紀久枝

※埼玉県指定・認定NPO法人ふじみの国際交流センターに寄付をしてくださった方は、税金の優遇を受けることができます。

ふじみの国際交流センターサービス案内		
外国人 ゲスト派遣	国際理解教育	3,000円+交通費+事務費
	外国料理教室	5,000円(材料費別途)
講師派遣	多文化共生講座	20,000円+交通費
	ボランティア講座	(活動運営のためご協力ください)
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	内容・予算に応じて相談
編集・出版	多言語による情報誌・ガイドブック・チラシなどの制作	
翻訳	婚姻関係、ビザ申請、履歴書	A4 2,000円/ページ
	その他文書	A4 3,000円/ページ
通訳	半日5,000円+交通費	
見学・研修(資料代として)		1,000円/人、日

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、生活相談・外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。